

【計量ベクトル空間】 ● 実ベクトル空間 V の各 2 元 \mathbf{u}, \mathbf{v} に対して実数 (\mathbf{u}, \mathbf{v}) が定義されていて次の 4 条件を満たすとき、 $(\ , \)$ を V の内積と言ひ、 $(V, (\ , \))$ 、または単に V を 計量ベクトル空間 (実計量ベクトル空間) とする。

$$1^\circ (\mathbf{u}, \mathbf{v}) = (\mathbf{v}, \mathbf{u})$$

$$2^\circ (k\mathbf{u}, \mathbf{v}) = k(\mathbf{u}, \mathbf{v}) \quad (k \in \mathbf{R})$$

$$3^\circ (\mathbf{u} + \mathbf{u}', \mathbf{v}) = (\mathbf{u}, \mathbf{v}) + (\mathbf{u}', \mathbf{v})$$

$$4^\circ (\mathbf{u}, \mathbf{u}) \geq 0 \quad (\text{等号は } \mathbf{u} = \mathbf{0} \text{ のときのみ成立})$$

● \mathbf{R}^n に標準内積を考えた計量ベクトル空間を特にユークリッド空間と言う。

◇ 計量ベクトル空間でも、ユークリッド空間と同様にノルム・角度・直交系・正規直交系・正規直交基底が考えられ、シュミットの直交化法も No.18 のプリントと全く同じ式で使える：

● $\mathbf{u} \in V$ に対し $\|\mathbf{u}\| = \sqrt{(\mathbf{u}, \mathbf{u})}$ を \mathbf{u} の長さ、または \mathbf{u} のノルム と言う。

● $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in V (\mathbf{u}, \mathbf{v} \neq \mathbf{0})$ に対し $\cos \theta = \frac{(\mathbf{u}, \mathbf{v})}{\|\mathbf{u}\| \cdot \|\mathbf{v}\|}$ で決まる角度 θ を \mathbf{u} と \mathbf{v} のなす角 と言う。
(シュヴァルツの不等式 (後述) により右辺は絶対値 1 以下の実数になる。)

● $(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = 0$ のとき \mathbf{u} と \mathbf{v} は直交する と言う。

◇ V の一次独立なベクトルの組 $\{\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_m\}$ が与えられたとき、次のアルゴリズムで正規直交系 $\{\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_m\}$ を得る：

$$\text{for } k := 1 \text{ to } m \text{ do} \\ \quad \text{begin } \mathbf{v} := \mathbf{u}_k - \sum_{j=1}^{k-1} (\mathbf{u}_k, \mathbf{a}_j) \mathbf{a}_j; \quad \mathbf{a}_k := \frac{1}{\|\mathbf{v}\|} \mathbf{v} \quad \text{end;}$$

特に $\{\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_n\}$ が V の基底ならば $\{\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n\}$ は V の正規直交基底になる。

【定理 A】 $(V, (\ , \))$ を実計量ベクトル空間、 $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in V, k, \ell \in \mathbf{R}$ とするとき次が成り立つ。

$$(1) \|k\mathbf{u} + \ell\mathbf{v}\|^2 = k^2\|\mathbf{u}\|^2 + 2k\ell(\mathbf{u}, \mathbf{v}) + \ell^2\|\mathbf{v}\|^2$$

$$(2) (\mathbf{u}, \mathbf{v}) = \frac{1}{2}\{\|\mathbf{u} + \mathbf{v}\|^2 - \|\mathbf{u}\|^2 - \|\mathbf{v}\|^2\}$$

$$(3) |(\mathbf{u}, \mathbf{v})| \leq \|\mathbf{u}\| \cdot \|\mathbf{v}\| \quad (\text{シュヴァルツの不等式})$$

$$(4) \|\mathbf{u} + \mathbf{v}\| \leq \|\mathbf{u}\| + \|\mathbf{v}\| \quad (\text{三角不等式})$$

【定理 B】 $(V, (\ , \))$ を n 次元の実計量ベクトル空間、 $\Lambda = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$ を V の正規直交基底とする。このとき $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in V$ の Λ に関する成分を ${}^t(x_1, x_2, \dots, x_n), {}^t(y_1, y_2, \dots, y_n)$ とすれば、

$$(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = x_1y_1 + x_2y_2 + \dots + x_ny_n, \\ \|\mathbf{x}\| = \sqrt{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2}$$

が成り立つ。

【208～210】 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}, \mathbf{y} = \begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2$ に対して (\mathbf{x}, \mathbf{y}) を次の式で定義すると内積の条件を満たしていることを確かめよ。

$$[208] \quad (x, y) := ac + 2bd$$

$$[209] \quad (x, y) := 2ac + ad + bc + 2bd$$

$$[210] \quad (x, y) := 3ac - ad - bc + 2bd$$

[211~214] $x = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}, y = \begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2$ に対して (x, y) を次の式で定義しても \mathbf{R}^2 の内積とはならない。その理由を述べよ。

$$[211] \quad (x, y) := ac - bd$$

$$[212] \quad (x, y) := a^2 + b^2 + c^2 + d^2$$

$$[213] \quad (x, y) := ac + 2ad + 3bc + 4bd$$

$$[214] \quad (x, y) := ac + ad + bc + bd$$

[215~216] 実数係数の 2 次以下の x の多項式のなす実ベクトル空間 $V = \mathbf{R}_2[x]$ の 2 元 $f, g \in V$ に対して (f, g) を次の式で定義すると内積の条件を満たしていることを確かめよ。

$$[215] \quad (f, g) := \int_0^1 f(x) g(x) x^2 dx$$

$$[216] \quad (f, g) := f(0)g(0) + f(1)g(1) + f(2)g(2)$$

[217~218] $V = \mathbf{R}_2[x]$ の 2 元 $f, g \in V$ に対して (f, g) を次の式で定義しても V の内積とはならない。その理由を述べよ。

$$[217] \quad (f, g) := \int_{-1}^1 f(x) g(-x) dx$$

$$[218] \quad (f, g) := f(0)g(0) + f(1)g(1)$$

[219] 実数係数 n 次正方行列全体の集合 $M_n(\mathbf{R})$ において $(A, B) := \text{tr}({}^tAB)$ は内積の条件を満たすことを確かめよ。

[220~221] $V = \mathbf{R}_2[x]$ の 2 元 $f, g \in V$ に対して $(f, g) := \int_0^1 f(x) g(x) dx$ によって内積を定義するとき、次で与えられる V の基底 Λ に対してグラム-シュミットの直交化法を実行せよ。

$$[220] \quad \Lambda = \{1, x, x^2\}$$

$$[221] \quad \Lambda = \{x^2, x, 1\}$$

【注意】レポート問題 2, 3 の様に、連続関数に対しては積分を用いて内積 (\cdot, \cdot) を定義することができる。すると

$$2 \text{ 関数 } f(x), g(x) \text{ 間の距離} = \|f - g\|$$

と定めることができ、関数に対して近い・遠いといった議論を定量的に展開することができる。